

いつも一緒  
富山のペットたち

「コフォォッ、コフォォッ」。猫が湿っぽい音を出すのを聞いたことがあるでしょうか。初めて耳にする「これは何だぞ」と思われるかもしれませんが、たいていの場合、それは咳なのです。

猫は顔を前の方に伸ばしてつらそうに咳をします。音は大きくな、胸の奥から何かを出そうとしているように聞こえます。今回は、猫の咳の原因として一般的で、突然呼吸困難を起すこともある「猫ぜんそく」について説明します。



宮崎 陽子

竹山動物病院獣医師  
(富山市西田地方町)

猫ぜんそくは、何らかの原因で気管支に炎症が起きて狭くなることで、咳が出たりゼーゼーしたり、時にはひどい呼吸困難を起したりする病気です。気管支が炎症を起すきっかけとしては、たばこの煙や猫砂のほこり、消臭剤、芳香剤、線香、香水、ヘアスプレー、花粉、部屋のほこり、カビを吸い込むことによるアレルギー反応が考えられます。

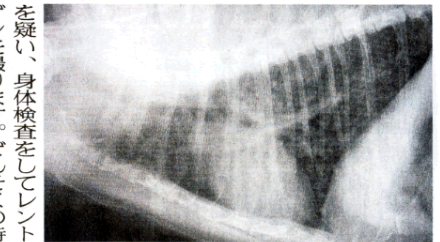
呼吸困難に

猫ぜんそくは、2〜3歳の若い猫で重い症状が出やすいのですが、4〜8歳の中年でも発症します。咳をした後にケロツとし

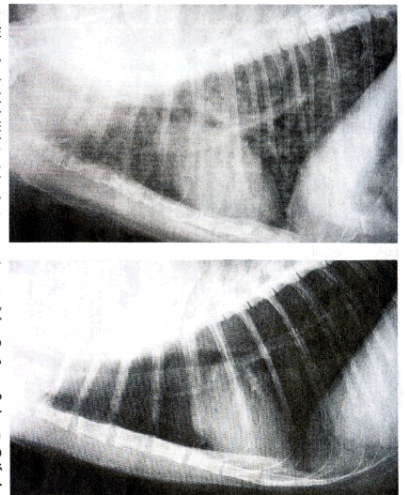
猫の咳



ている場合は治ったように見えます。でも、アレルギー物質を吸い込むとまた症状が出ます。咳が連続して呼吸困難になっていく場合は緊急事態なので、すぐに動物病院で受診しましょう。



咳が突然連続して出始め、猫ぜんそくが強く疑われるときは、酸素吸入をしながら、気管支を広げる薬とステロイドという薬を注射します。症状が落ち着いてきたら、レントゲンを撮ります。



「元氣だけどたまに咳をする」という程度の時も、猫ぜんそくを疑い、身体検査をしてレントゲンを撮ります。ぜんそくの時に見られる気管支の異常が写

アレルギー物質除こう

猫の胸部のレントゲン写真。ぜんそくの猫(上)は、狭くなった気管支が白っぽく見える。下は異常のない猫。

ていけばわかりやすいのですが、レントゲンにまったく異常がないことがあります。他に病

猫砂はほこりの出にくいものをを使う、エアコンのフィルターをまめに掃除する、部屋に植物を置かないといったことに気を付けます。いくつかの物質については、アレルギーがあるかどうかを血液検査で調べられます。アレルギーがあるとわかれば、その物質を意識して避けることができます。

「いつも一緒 富山のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。

気がないようなら、まずぜんそくの治療をして、症状が良くなるかどうかをみることもあります。緊急ではないときの治療も、主にステロイドと気管支を広げる薬を使用します。ステロイドが使えない病気を持っていたり、ステロイドが効かなかったりする場合は、他の薬を使うことも考えます。

たばこ避ける

咳がたたくさん出て治療が必要なのにどうしても猫が薬を飲まない場合は、芳香剤やヘアスプレーなどをなるべく使わないようにしよ

2011(平成24)年 4月5日  
北日本新聞